

を搾汁して果汁にするというもの。この果汁を使用すると、最終製品メーカーは製品で“アップサイクル”がアピールできる。また果汁が副産物であるため価格競争力があり、さらに缶詰は完熟果実を使用するため果汁も高品質だ。

2026年は、同社で初となる消費者製品を開発し日本市場で販売する。さらに、缶詰事業でも他社と異なる強い個性とプレミアム性のある新製品を発売した。

▶消費者向け製品は「S&W 100%パイナップルジュース」を5月から全国で発売する。同品はS&Wブランドで初となる飲料製品で、ミンダナオ島の自社農園で栽培したスムースカイエン種を使用したNFCジュース。

容器は177mlの3Pスチール缶、缶胴に紙巻きラベルを使用して輸入製品を明確にイメージさせる一方で、ラベルのデザインは日本仕様に仕上げた。価格は1缶が税別200円で、6缶スリーブマルチパックが同1,200円となっている。年間販売目標は7万缶である。

▶「S&W デラックスゴールドパイナップル果汁づけ」は、上級仕様のパイナップル缶詰である。ゴールドデンパイン(MD2)のスライスを缶詰にした。発売日は2026年3月。

MD2は主に生食用に開発された品種のため、果肉が濃色で風味が良い。また、同品は糖度16度を目標に熟度を上げ、さらに充填液にはシロップではな

くMD2のNFC果汁を使用している。このため同種のフルーツ缶詰に対して風味豊かで、良質な味わいを提供する。

容器は3号缶(内容量565g、スチール缶)。参考価格は税別500円で、まずは高級スーパーや外食産業向けに紹介していくという。同社によれば、初回出荷は3万缶となっている。

▶デルモンテフィリピンでは、主に加工向け(缶詰向け)のパインアップルを栽培、加工している。同社は、近年生鮮市場向けのパインアップルに力を入れており、現在75%を占めるスムースカイエン種から、MD2種への切り替えを進めている。

このことはジェー・ガーバー商会にとって追い風となる。なぜなら生鮮市場に不適な果実を利用する缶詰や果汁の生産量を増大できるからだ。

また生鮮市場向けは完熟状態で収穫・出荷するため、缶詰や果汁向けも完熟品となり、競合に対して高品質になる。こうしたことから、ジェー・ガーバー商会はフラッグシップとなるMD2を武器に日本市場を獲得し、さらなる品種展開の足がかりにしたい考え。

▶ジェー・ガーバー商会は、南アフリカから果実缶詰、果汁、ピューレ、セグメント、IQF各種を日本市場に供給している。このうち果汁ではマンダリンを紹介している。強い価格競争力と潤沢な供給量、14以上の糖酸比、良好な発色、国産晩柑品と遜色ない風味を武器にしている。

▷ランゲバーグフーズ社からはシロップ漬け缶詰のほかにも、4倍濃縮のピューレとして、イエローピーチ、アンズ、洋ナシ、リンゴ等を供給できる。いずれも0.5ミリメッシュで異物を除去してあり、日本市場ですぐに使用できる。

▷オンダバーグ社からはセグメント・さのうの缶詰を供給。また、オレンジ、グレープフルーツ(赤・白)、マンダリンの濃縮果汁も供給可能だ。この果汁

ジェー・ガーバー商会

ジェー・ガーバー商会は、日本総代理店となっているシンガポールDel Monte Pacific Limited(デルモンテ)が所有する「S&W」ブランドの缶詰事業を起点として、“アップサイクル”を武器に飲料関連事業の取り組みを強化している。現在の主力である外食、菓子、デザートに加えることで、事業全体を拡大させる狙いである。

特に“缶詰屋さんの果汁”という提案を最大の強みにする。これは缶詰の製造時に発生する“規格外品”の果実



も缶詰用果実の不適合品を利活用したものである。

▷DCフーズ社はIQFを供給。現在はオレンジチャンク、オレンジセグメント、くし切りレモン、グレープフルーツセグメント(白・赤)など供給している。

▶国産品でも“缶詰屋さんの果汁”の製品化を進めている。第1弾として、2025/2026年シーズンに収穫した国産温州ミカンのNFC果汁が完成した。この果汁は、国内の協力工場で製造したもの。同工場は柑橘類加工では国内3割のトップシェアを誇る製造工場。ジェー・ガーバー商会のS&Wブランド製品の受託加工を行なっていることから、温州ミカンの果汁を開発した。

同社によれば、国産温州ミカンのうち約4,000トンが缶詰で使用されている。選果場では果実が生食用と加工用に大別され、さらに缶詰用と果汁用に分類される。近年は選別が簡素化されており、加工用の一括調達を余儀なくされているという。加工用果実には一定の割合で缶詰に不適な果実が含まれることから、果汁に加工してジェー・ガーバー商会が販売することになったという。

この果汁は缶詰用に外皮が除去された状態で搾汁、固形分を分離している。糖度が高く、柑橘オイルが含まれないため優しい味わいという。荷姿はホットパックしたガロン缶で、常温保存可能だ。同社では年間50～60トンを供給できる見込み。